

モニタリング結果報告書

施設名 : 県立観音崎公園

指定管理者 : 横浜緑地・西武造園グループ

施設所管課(事務所名) : 横須賀土木事務所

(平成21年度 下半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
10月	11月10日	11月27日	月例報告、現地確認等
11月	12月9日	12月28日	月例報告、現地確認等
12月	1月8日	1月28日	月例報告、現地確認等
1月	2月8日	2月26日	月例報告、現地確認等
2月	3月8日	3月26日	月例報告、現地確認等
3月	4月9日	4月28日	月例報告、現地確認等

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A : 提案を上回る B : 提案どおり C : 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

観光公園・地域連携の観点から公園利用者を増加させる事業を提案した。

- ①観音崎を楽しむ拠点としてのイベント等を充実
- ②観音崎自然博物館、横須賀美術館や青少年の村、京急ホテルなど周辺施設と連携を図る
- ③園内の広場や森のロッジを活用し市民ボランティア等と連携した自然、歴史地層のガイドツアーの実施

<実施状況>

- ①公園自主事業として、花の名所づくり、カワズザクラ等植樹祭の実施、花のボランティアの立上げなどを行った。ボランティアグループによる屋外展示物”28センチ榴弾砲実物大模型”を製作し、NHK、民放、新聞等メディアを活用し公園をアピールし、広く他県より来園者を獲得することができた。秋連休イベントや観音崎フェスタでは、外部団体及び環境団体の協力を得て、”環境再生”をテーマにイベントを開催した。共催事業としては、公園連絡協議会にて写真コンテストを開催した。来客35,000人の観音崎フェスタ、他公園との連携イベントを開催した。
- ②各イベント開催には、観音崎公園倶楽部(ボランティア4グループ)60名の参加や近隣町内会の方々の支援を得て実施した。これにより、公園と地元とのより良い関係”絆”を保ち、観光公園として、公園利用者を迎えることができた。
- ③講師を迎え、公園案内ボランティア勉強会や自然、地層、歴史ガイドツアーを実施した。

3 収支状況

(単位：千円)

	収入額			支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月料金額)	その他収入 (前年同月料金額)		
年間予算額	107,581	79,800	0	107,581	0
上半期計 (a)	61,580	39,852	36 (0)	52,731	8,849
下半期計 (b)	48,783	39,948	11 (0)	48,497	286
10月	8,449	6,613	11	6,901	1,548
11月	8,686	6,868	0	5,557	3,129
12月	8,163	7,359	0	10,802	△ 2,639
1月	8,787	6,643	0	6,203	2,584
2月	7,719	6,930	0	6,094	1,625
3月	6,979	5,535	0	12,940	△ 5,961
合計 (a+b)	110,363	79,800	47 (0)	101,228	9,135

1 指定管理者の収入を記載する(県の収入である「使用料」は含まない)。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
 ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
 ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

公園利用客数・駐車場利用台数増加による収入増。

(今期に行った資本的な収入及び支出の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況		
支出の状況	乗用式草刈機の購入	1,000

収入の状況: 定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況: 車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況: 積立・借入れ等がある場合は、その内容(施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等)、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	400,600人	340,000人	17.8%
下半期計 (b)	345,100人	311,200人	10.9%
10月	60,000人	52,000人	15.4%
11月	84,100人	74,500人	12.9%
12月	43,000人	41,500人	3.6%
1月	52,500人	51,000人	2.9%
2月	43,500人	36,000人	20.8%
3月	62,000人	56,200人	10.3%
合計 (a+b)	745,700人	651,200人	14.5%

利用状況に関する意見等

半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。

横浜横須賀道路の延伸、高速料金の値下げ等都心からドライブで気軽に行ける距離にある観音崎公園に来やすい環境になった。
また、2.8センチ大砲の実物大木製模型の作成・設置し、その模様が紙面掲載や、全国放送されたことなどメディアを活用し、公園をアピールできたことが、来園者増加に寄与したものと考える。

5 苦情・要望等の状況 (施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	3	0	0	0	3
11月	0	3	0	0	0	3
12月	0	0	0	1	0	1
1月	4	0	0	0	0	4
2月	0	3	0	0	0	3
3月	0	3	0	0	0	3

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・園内がわかりづらい	パンフレットで丁寧に説明
職員対応	・職員の対応が親切である	今後も、接遇研修を実施
	・ゴルフをしている。	注意看板設置
事業内容	・さくらの名所となるようにして下さい。	毎年、サクラの植樹を行う計画
その他	・トビにかまれた。	注意看板設置、注意放送の実施

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政システム改革推進課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

9 下半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者	<p>観音崎通信を発行し、公園利用促進のためのイベントや公園の情報を発信し、地元への公園アピールに努めた。ボランティア、公園関係機関との調整や鴨居連合町内会と連携を図り、防災訓練、海岸清掃（クリーンよこすか）への参加やサクラ植樹祭の開催など地域活動を活発に行い、花のボランティアを立ち上げた。また、修繕や補修工事を積極的に実施した。乗用式草刈機購入による、草地管理の作業効率化やボランティア活動による草花管理の効果が期待できる。</p>
施設所管課	<p>施設・清掃管理項目については、概ね作業執行率を達成し適正に管理されている。毎年強風時に倒木等が発生している状況の改善のため、来園者に危険が及ぶ可能性のある枯損木の伐木処理を年間計206本、枝おろしは290本を実施し、園内の安全確保の強化に積極的に努めた。</p> <p>安全管理では、遊具の必要な点検はされており、また、台風や警報発令時には、来園者の安全確保のために積極的かつ早急に情報収集・報告を行った。今後は、公園見回り隊の実施に向け、地域の方々との連携を取る等の取り組みを強化していく必要がある。</p> <p>利用促進事業として行った28センチ榴弾砲実物大模型の製作には、ボランティアの方の協力があり、新聞紙面掲載や全国放送などの情報発信により、観音崎公園の新たな名所となりつつある。</p> <p>サクラ植樹祭が盛況に行われ、今後の観光振興にも貢献した。また、年間51回の自然ガイドツアーやクラフト教室等を実施しているが、天候不良でもなく参加者が1名や2名のものがいくつか見受けられ、広報について改善の余地がある。</p> <p>「PDCA目標シート」による指定管理事業全体に関する履行確認については、一部事業において実施されているが、今後は事業全体に広げることが課題である。また、「園内バリア箇所調査」、「維持管理計画調査」については、調査内容の充実が求められる。</p>